

第四章 北 滿 平 野

第一節 位置及区域

北滿平野と云へば一般通念として新京以北北安以南のハルピン、チ、ハル等を含んだ地域を總稱するも本章に於ては概ね東経一二三度乃至一二九度、北緯四三度乃至四七度の間で吉林省及濱江省の区域とする本地域の位置は略々滿洲の中央部に位し松花江流域の大平野であつて東は間島省、牡丹江省、三江省に接し北は北安省西は龍江省南は通化省、奉天省に境を接している

第二節 戰略的觀察

第一款 本地域の戰略的価値

其の一 地形上より見たる戰略価値

一、本地域は滿洲の略中央に位し地形は大部分が平地で交通の中心をなし、東西南北各地域よりの交通幹線は本地域に集中し滿洲に於ける政戰兩略上の重要地域である

ニシベリヤ方面より滿洲に進入する場合の第一次作戦目標は先づ東北、西各方面共に求心的に此の北滿平野に指向されるのが至当であろう、次いで第二次作戦目標を選定し部署を変更して南下することとなるであろう

逆に遼東半島、華北、北鮮等より滿洲に進入する場合に於ても南滿の次に第二次の戰略目標として長春ハルビン地区が選定されるであろう

然る後後方を整備し部署を変更して東、北、西等に遠心的の作戦を

実施することゝなる

三 北滿平野に向う作戦は南よりする作戦も北よりする作戦も何れも外線作戦であり北滿平野を基点とする作戦は内線作戦である依つて本地域は内線作戦より外線作戦に又は外線作戦より内線作戦へと戦略上大転換を実施せなければならぬ要地である

其の二 略 要 点

本地域に於ける略要線として松花江及老嶺山脈小白山山脈があり戦略要点としてハルビン及長春がある

一 松花江は北滿の母として北滿大平野を貫流する大河で三岔口より上流の第二松花江に於ても吉林附近に於て水深四一六呎もあるの軍の作戦行動に於て一大障害を呈し三岔口より下流の松花江に至つては嫩江をも含せ河巾千米内外となり攻防共に戦略上重要な要線と云ふことが出来る

ニ老嶺山脈及小白山山脈は濱江省及吉林省と三江省及牡丹江省との省境に在りて密林を以て覆われ標高千米内外の山地にして鉄道及道路以外は大軍の通過容易ならざるを以て攻防共に一つの要線を形成する

三ハルビンは北滿の政治經濟文化交通、軍事等の中心である。松花江に跨りシベリヤの滿洲、ハバロフスク、ブラゴエチエンスク、チタ及大連等の東西南北に通する幹線鉄道及水路の要衝であり、人口約七五^五万で省公署を初め各種機關備はり当時日本軍の兵舎補給諸廠等の施設も多し産業盛んで物資亦豊富であるから作戦基地特に總兵站基地としての価値十分に備はり空地兩方面の要隘要点である

四長春は滿洲建國と共に首都として建設され政治經濟文化産業交通軍事等各般に亘り急速な発達を遂げた

人口約五^七_四万鉄道の北鮮、ハルビン、チ、ハル秦天等四方に通してゐるし道路網も四通発達し各種機關備はり日本軍駐屯時代にも多

くの兵舎補給廠及病院等があり、ハルピンと共に戦略要点として重要な都市である

第二款 隣接地域との戦略的相互関係

一、南滿との関係

南滿との戦略的相互関係は北滿平野が南滿の大平野と地域的に連続しているので極めて密接なる関係にある。即ち連京線、京濱線を中軸とする所謂滿洲平野は一連の作戦地域と考へらるるを以て此の地域は首を以てする主力の決戦場として相互連続せる作戦地域であり、兩者の間障礙となるべき地障もない、連京線京濱線以東の山地と雖も吉林省の東部省境地区を除き大なる障壁とならざるを以て奉吉線に沿ふ作戦路に連京、京濱線の主作戦路に對し支作戦路としての価値大である

二、東滿との関係

東滿との關係は夫々吉林省及濱江省東部省境の山脈を隔て、閩陽省、牡丹江省三江省と連り、北緯、海龍、イマン及ハバロフスク方面に通ずるを以て東部シベリヤより滿洲に侵入するものは延吉―長春、牡丹江―ハルピン及佳木斯―ハルピンの三作戦路を利用するである。延吉―長春道は山地長延なれども障碍度大ならざるを以て作戦比較的容易であり、牡丹江―ハルピンは老嶺山脈の險ありて重要な作戦路なるも防者に有利である。

佳木斯―ハルピンは松花江の水運を利用すべき時期に於ては大なる障碍なくして作戦することが出来る。

三 北部北滿との關係

北部北滿との關係は北安附近迄の平地の北滿平野の連続であり北安以北の小興安嶺を越えて黒河方面に突出することが出来る。小興安嶺の地形險峻ならず大なる障碍たり得ないが黒龍江は大なる障碍を形成するを以て寧ろ黒龍江が戦路要線としての価値が大である。

西滿との關係

西滿との關係は龍江省は北滿平野の一部で同一作戰地域に入るべきものである。

大興安嶺を越え海拉爾を経てチタに通ずる作戰路と外蒙古より興安河及南省を経て吉林省に通ずる作戰路があり兵力の重点はハルビン―海拉爾道なるべきも外蒙より長春方面に対する作戰路は機械化部隊の活躍地域としての面値相当に大なるものがある

第三款 作戰方向

其の一 南滿に向ふもの

遼京線に沿ふもの

南滿に向う作戰路は遼京線に沿ふものが最大であり主力の決戦は此の地域に於て行はるるを至当とする是れ遼京線は滿洲の政略上の中軸をなし地形は大雷の機動作戦に適し兵站線の補給能力の見地か

らも連京線の鉄道能力は滿洲第一であるその上道路網も比較的
 しているので大軍の作戦に適している

三、吉林―海龍―通化線に沿ふもの

本作戦路は連京線に沿ふ主作戦路に連繫をして海龍方向より奉天
 方地区に進出する場合と遠く通化より安東又は平壤方面に獨立した
 作戦路として行はれる場合がある

但後者は地形山地を通ずる長距離多き為使用すべき兵力は限定せら
 れるであろう

其の二 東滿に向ふもの

東滿に向ふものには濱綏線、京函線及松花江に沿ふ三つの作戦路があ
 る

一、濱綏線に沿ふもの

濱綏線に沿ふものは老嶺山脈の隘路はあるけれども之を突破して一
 度東滿の要地牡丹江に進出すれば或は北鮮方面に或は浦鹽方面に或

は東安省方面に進出し得らるゝもので重要な作戦路である

二、京図線に沿ふもの

長春より吉林敦化を経て北鮮に通ずるものであるが吉林より延吉迄は連続山地を通じているので濱綏線に沿ふものに比すれば作戦速度は遅延するであろう

尚濱綏線に策応する為敦化―鏡泊湖―牡丹江道がある

三、松花江に沿ふもの

松花江の大動脈を利用して三江省方面との間に作戦する場合松花江の水運と共に兩岸に沿ふ道路を利用し得るが此の場合陸路は幾多の橋梁なき松花江支流を渡河せねばならぬので補助的作戦路の価値は少ない。但し松花江は冬季結氷するを以て氷上通過により作戦路として使用し得るも水運に比すれば兵站補給能力小なるを以て作戦兵力は冬季に於ては限定されるであろう

其の三 北部北滿に向ふもの

北部北滿に向ふものは濱北線に沿ふものであるが北安迄は大平原地帯で濱江省と同様大軍の決戦を実施し得る地区である

其の四 西滿に向ふもの

西滿に向ふものは濱齊線に沿ふものと京白線に沿ふものがあり外に嫩江の水運を利用するものがある

一 濱齊線に沿ふもの

濱齊線に沿ふものは北滿平野を東西に貫き地形平坦で作戦軍は鉄道線路の兩側に自由に作戦し得るを以て大軍の機動作戦可能である

二 京白線に沿ふもの

長春より白城子を経て一はハンドガヤ方面よりホロンバイル平原に進出するものと他はチ、ハル方面に進出するものとが考へられる連続する平原地帯であり大軍の機動作戦を実施することが出来る

三 嫩江の水運を利用するもの

嫩江の水運を利用するものは前二者の作戦の補助として利用される程度である、殊に兩岸に沿ふて濕地湖沼の障碍があるので大なる部
除の作戦略としては不適當である尙冬季は凍結するを以て補給路とし
ての利用度は減少する

第三節 戰術的觀察

第一款 本地域の戰術的構成及区劃

其の一 平坦開闢地

一、京濱線より以西は概ね平坦開闢地である濱江省に於ては殆んど起伏なき一望千里の大平原がチ、ハル方面に迄伸びている

吉林省に於ては長春以西の地区は大波状地帯をなし第二松花江の流域は比較的低く農安以西乾安、長嶺間は低地より一五〇―二〇〇米の比高を有する台地であつて緩徐なる波状をなして洮南及遼源方面の大平原に連接している

二、京濱線以東に於ける平坦開闢地は濱江省と吉林省の省界をなす吉林河の流域とハルビン―木蘭間の松花江西岸地域である

其の二 丘陵地

一、濱江省に於ける丘陵地はハルビン以東濱綏線に沿ふ兩側地区にして珠河葦河附近迄の地域と木蘭北方三江省境北安省境附近の地域とに

在り

此等の丘陵地帯は比高二百米位より四五百米に至る丘陵地の断続せる所にして殆んど樹木なく稀に灌木が叢生している程度である

三吉林省に於ては連京線以東奉吉線以西の地域と吉林以東敦化附近に至る地域とがある

前者は比高百一二百米程度の極めて小なる起伏地帯である。後者は敦化盆地、桦甸盆地、蛟河盆地等の丘陵地帯であつて盆地の周囲を圍繞する山地迄の比較的緩起伏の丘陵地帯であるが森林を以て覆われている地域も相当にある

其の三 山地、長隘路

一 濱江省に於ける山地は牡丹江省及三江省との省境に在る老嶺山脈及小白山山脈である

兩山脈共に標高千米一千三百米程度のもので東西五、六十軒、百軒内外に互り密林地帯である之が為東西に通ずる交通路は僅かに濱綏

線に沿ふものが一条であり且兩側森林地帯であるから自ら長路を形成している

三吉林省に於ける山地としては牡丹江省、濱江省界に小白山山脈があり間島省との境に哈爾巴嶺山脈がある又省内には吉林東方の山岳地帯及敦化西方の新開嶺等がある

小白山山脈は概ね八十一百軒に互り森林を以て覆はれている之が為交通路は鏡泊湖に沿ふ地区に敦化より牡丹江に通ずる道路があるのみである此の地は小白山山脈の南端に当つている平坦地である哈爾巴嶺山脈は地形も峻峻ならず概ね千米以下で且巾も短く京滬線に沿ふ地区で鐵路を成す部分は比較的短い

吉林東方の山地は標高千米以下なるも地形急峻にして錯雜森林ありて作戰には障礙をなす

新開嶺は標高千二百米内外にして森林あり障礙を呈する

其の四 河川による区劃

一、濱江省に於ては河中千米以上の松花江中央を貫流し自ら江北と江南とを区劃し水深大で軍隊は渡渉し得ず障礙を呈する。然し水運の便があるを以て濱江省と三江省は松花江により連接せられると云ふことが出来る。

二、吉林省に於ては第二松花江東南より西北に向ひ省内略々中央を貫流している。第二松花江も下流は千米に近く省を南北（東部に於ては東西）に区劃してゐる。

三、濱江省と吉林省との省境に拉林河があり河中は四―五百米にして大ならざるも西岸濕地帯ありて作戦上に於ては第二松花江よりも却つて障礙の度大である。

下 道路

ハ 濱江省

第二款 本地域の戦術的一般觀察

其の一 交通

イ 濱江省は人口稠密なるを以て道路亦一般に発達している就中ハ
ルビン周縁地区（阿城、双城、呼蘭、肇東を含む）は概ね簡易
舗装の道路が通じ其他の道路も発達しているので軍の機動力を
發揮し得る

ロ ハルビンと珠河と草河と牡丹江道は東滿に通ずる幹線道路で極
めて重要である本道路は阿城以東は山地を通じ殊に珠河以東に
於ては迂回路も殆んどなく且兩側は森林地帯であるから極速路
を形成し防者は持久に適す

ハ 濱江省内一般の道路は鉄道に沿ふ主要幹線道路を除き一般に馬
車を通ずる為路面不良なものが多い

ニ松花江には鉄道橋の外ハルピンに鉄道橋と道路橋と共通の橋梁があるだけである

2 吉林省

イ吉林省も濱江省と同じく人口稠密農産物豊富なるを以て道路網も吉林以西連京線を中心として発達している

殊に長春を中心にして其の四周に発達し公主嶺、吉林、德惠、農安、伊通、及陽等には比較的良好なる自動車道が通じている従つて本地区に於ける車の機動作戦は比較的容易である

ロ吉林以東の地区に於ては道路は極めて少く京図線に沿ふ幹線道路の外は僅かに警備道路として構築された敦化、樺甸、盤石、及陽道及敦化、東京城道に過ぎない此等の地区は山地を過じているので山腹道多く隘路を形成し防者に有利である

三 鉄道

本地域に於ける鉄道は左の如く滿洲に於ける最も重要なものが

通じている

連京線、京濱線、濱綏線、濱州線、濱北線、京白線、京図線、奉吉線、拉濱線

2 連京線京濱線は複線で輸送力は滿洲の最大であるのみならず平地を通りハルピン、新京公主嶺等の大都市を貫き戦略上最も重要である

3 濱綏線、濱齊線、濱北線はシベリヤに通ずる重要幹線である濱綏線は珠河以東、山地を通じ長路を形成する

ハルピンに於ける濱北線及濱齊線の鉄橋は千米を越え爆撃目標となる

4 奉吉線、京図線、拉濱線は山地を通じ輸送力連京線等に比し劣る京白線は平地を通ずるも要度低く輸送力従つて低し

三 飛行場

飛行場は日本軍の整備した飛行場の外に滿洲航空会社の使用した飛

四 一〇

行場があつた

即ちハルビン地区及長春には爆撃及戦闘の飛行場群があり又当時航空廠も存在し航空基地としての要素を備へている其他公主嶺、吉林敦化、珠河等には夫々數個の飛行場が設備されていた（第二章第三節参照）

其の二 地形

一 平地

平地に於ても全くの平地地にして極めて緩急なる波状地をなすハルビン西方地区と長春以西の如き大波状地と長春以東及び五常の如き小波状地との三種類に区分することが出来る

緩急なる波状地に於ては攻防共に火力を十分に發揮し得ると共に空地に対し全く暴露しているから制空権を獲得すること及優勢なる火砲戦車等を有する軍は作戦容易である此等の地区に於ては河川以外は障礙物をなく単一正面の防禦及持久戦には適しな

の攻撃も正面攻撃は徒らに損害を招くを以て包圍迂回により敵の側背を攻撃するを有利とする

ロ 大波状地は攻防共に歩砲の協同容易なるを以て火力の優勢なるもの及機械化部隊等の機動により勝敗を決することが出来る
大波状地は地形を巧に利用することによつて損害を減じて近接することが出来る

ハ 小波状地は地形を利用して防禦陣地を編成すれば強靱なる陣地が出来又攻者は地形を利用して近接することを得る、砲兵の火力は死角を生ずるを以て攻防共に射撃威力は限定され、陣地の選定により死角消滅に努めねばならぬ

2 季節の交感

冬季以外耕作地は農作物繁茂し遮蔽して行動し得るを以て損害を減少することが出来る雨期は泥濘となり機動力を制肘すること頗る多い

冬季に於ては滿目雪に覆はれ行動を遮蔽し得ず白布による偽装は地上のみならず空中よりの觀察に対しても必要である

三 河川

一 河川は時期により著しく戰術的価値を異にする

即ち冬季に於ては凍結するを以て部隊の通過容易となるが其他の時期に於ては松花江、第二松花江、拉林河共に大なる障礙を呈する従つて渡河及架橋資材の準備が必要である

二 河川は障礙として存する外に作戰路として利用することが出来る即ち作戰路として上下流方向に舟により機動することが可能である殊にハルピン附近の松花江は相当大なる兵力の機動が可能である

三 山地

一 山地は老嶺山脈、小白山山脈は森林を以て覆はれ交通路は一本の外殆んどなく其他は作戰不可能に近きものがある即ち戰術的には

単なる溢路戦となる

2. 吉林以東の山地は一般に起伏大であるが長陸路を形成し地形錯雜し道路網にも乏しく作戰は自ら道路網の附近で行はれる。敦化盆地は山地と雖も平坦地を含むを以て諸兵連合の戦力を發揮し得る

3. 長春以東吉林間の所謂丘陵地帯は小起伏の連続せる山地にして森林少く軍の攻防に適する地形である

其の三 人文

一 住民

本地域の住民は殆んど漢滿民族である

人口は吉林省 ^{五七六} 万人（人口密度六八人、^{一三}、^一）で

奉天省に次いで滿洲第二位である

濱江省は ^{四五} 万人（人口密度六六人、^九、^一）で奉天吉林、熱河、錦州省に次いで第五位である

三都市

1 ハルビン

ハルビンは松花江に跨り北滿の政治經濟文化交通軍事の中心である人口約七五万北滿第一の都市である豐富なる資源を有する北滿の中心に位し水陸交通の便があり北滿農産物約七百万石に及ぶ大量の物資の蒐散地で布業殷盛である

ハルビン地方の工業は製粉業、油坊業、製糖業、醸造業等で製粉業は其の能力全滿の過半額を占めている

交通は京濱線、濱州線、濱綏線、濱北線、牡濱線が此の地に築り道路亦之に沿ふて四方に通じている水運は松花江を中心とする北滿水運の核心をなしている

従つてハルビンは軍事上に於ても北滿第一の重要基地である

2 長春

長春は日露戦争を契機として南滿洲鉄道株式会社を経営終端驛と

して発展の緒についたが滿洲国の建國と共に首都として急激に近代都市として発達し人口約^{七〇}~~七五~~万、軍事政治文化産業經濟交通等の中心である

産業として一時は豆の都と迄讓はれ附近農産物の蒐散地である交通は京濱、京函、連京、京白線が集中し道路も四通発達している

3. 吉林

第二松花江の左岸に位し人口約二六万豐滿ダムの完成と相俟つて大工業都市として躍進しつゝあつた重要工場として吉林人造石油、大同洋灰、吉林燐寸等があつた

産物としては高粱、大豆、包米、粟等の蒐散地である

鉄道は京函線、奉吉線の交叉点にあり隣路の外松花江の水運も利用し得る

4. 公主嶺

人口約五万豊饒なる背後地を控へ特産物大豆、高粱、雑穀等の集散地である。同和自動車修理工場、滿洲織物工廠、農事試験場等がある。

5. 呼蘭

呼蘭河の下流、松花江の北岸にあり人口約六万土地肥沃で北滿の穀倉地帯と云はれ大豆、包米、高粱等の集散地である。

三. 物資

1. 農産物、畜産物

濱江省、吉林省に於ける農産物及畜産の数量及滿内の割合順位等は次表の如くである。

農産物は北滿の穀倉たる地域であるから其生産量は吉林省が全滿中第一位濱江省は第三位である。畜産では馬及豚の数量大である。

農 産 物											種 類			
畜	猪	牛	合 計	雜 穀	小 麥	陸 稻	水 稻	玉 蜀 黍	粟	高 粱	大 豆	數量 万吨	%	噸 位
	七二	七 七	三 八 六	三 〇	七	四	一 八	五 四	七 四	八 八	一 〇 〇			
	一三	五	一 八	二 〇	七	三 三	二 二	一 六	一 七	一 六	二 三			
	三	一 〇	一	一	三	二	一	二	二	二	一			
	八 八	九	三 二 六	一 六	一 六	一 五	九	六 八	七 六	六 六	六 八			
	一 七	五 三	一 五	一 一	一 八	一 三	一 一	二 〇	一 八	一 二	一 六			
	二	九	三	三	二	三	三	一	一	四	三			

吉林省、濱江省に於ける農産物及畜産の状況

2. 鑛産物

石炭は吉林省の寛城子、沙河子、營城子、蛟河、蘇密溝等あるも
 数量は大ならず

石灰石は大同セメント採掘場（吉林省、胡家屯）小野田セメント
 （吉林省伊通）及ハルピンセメント採掘場（濱江省石頭河）があ
 った

3. 林業

吉林省一〇〇万陌、濱江省八八万陌の立木地がある
 立木蓄積量は吉林省二億立方米濱江省一億一千万立方米である

4. 工業

イ食糧品工業

産		
驢	騾	馬
五	一三	三〇
八	二〇	一八
四	二	二
四	八	五一
七	一四	三一
六	三	一

製粉工業として濱江省は工場数三〇日産能力一五万袋で全滿第一である

吉林省は工場数七、日産能力四万袋で第二位である

製糖業は濱江省に阿什河製糖廠、呼蘭製糖廠があり前者は昭和三年頃三万二千担の産糖高があつた

製紙工業として滿洲特殊製紙（新京）康徳製紙（吉林省）照國製紙（ハルビン）等あるも何れも設備大ならず

其他縣工業若干あるも大なるものなし

ハ石炭液化工業として吉林人造石油株式会社がある

ニ電力として吉林に豐滿ダムによる水力発電があつた

5. 水産業

松花江本流及第二松花江は嫩江と共に全滿河川漁獲高の八六%滿洲総漁獲高の四七%を占めている

四 運搬具

上運投具

上運投具の主体をなす大車は正確なる数量不明なるも馬匹の数量に概ね比例するを以て馬匹七頭に付一台と假定すれば吉林省約七万台、濱江省約九万台となる。従つて奉天省と合すれば全滿の過半数を占むることとなる。

(註) 馬匹總数を二八〇万とし大車を四〇万台とすれば七頭に付一台の割合となる。

2. 水運

松花江本流は約千屯内外の汽船がハルビン―佳木斯間に通ずるのみならず第二松花江も吉林迄は小汽船を通ずるを以て滿洲に於ける最大の水運利用価値を有している。期間は四月より十月迄で其他は凍結する。

兩岸には吉林、扶余、ハルピン、呼蘭、三姓、佳木斯等の北滿産業經濟上の中心を点綴しているので産業の發達と共に水運は益々

發展する可能性がある。ハルビン在籍船舶数は汽船一二七、帆船
一一二、拖船二七三であつた

五 治安

兩省共に平地方面は農耕に従事して一般に良好であるし又警察が整
備すれば治安の確保は比較的容易である

山地方面は滿洲事變後匪賊化した旧東北軍の一部が共產匪として治
安を紊し山寨を築き日本軍の討伐にも困難を極めたことがあり地形
上山地方面は匪賊の策源地に利用せられることがある

其の四 季節の特性

一、冬季に於ける氣温はハルビン長春に於て夫々平均最低氣温零下二六
度二三度で最低氣温はハルビン零下四一、四度長春三六度であるか
ら冬季に於ける作戦に於てはその対策につき十分なる考慮を必要と
する

二、降雨量は六、七、八月に於ては南滿と同様に多量で總量の五五〇耗

月別	ハルビン		長春	
	平均最低気温(攝氏)	降水量(耗)	平均最低気温(攝氏)	降水量(耗)
一月	(-) 二六〇	四一	(-) 二三二	七二
二月	(-) 二二九	六四	(-) 一九一	六二
三月	(-) 一二五	一一一	(-) 一〇五	一六〇
四月	(-) 〇七	一九九	(-) 〇四	一九七
五月	六八	四三一	七二	五四三
六月	一三三	九九五	一三七	一〇六〇
七月	一八〇	一四九二	一八五	一七七三
八月	一六七	一〇九八	一六八	一三九七

の中本期に三〇〇耗の降雨であるから雨期の特性を現出する。殊に
 地区は松花江及多くの支流を有して交通の障碍となるを以て作
 には之が対策を十分に考慮することが必要である
 三ハルビン及長春に於ける平均最低気温及降水量は次表の通り

九月	(一)	八五	五六四	(一)	九〇	五九四
十月	(一)	〇二	二九三	(一)	〇五	三六六
十一月	(一)	一三三	一三二	(一)	九八	一五九
十二月	(一)	二二七	五一	(一)	一九五	七二
年	(一)	三八	五四八一	(一)	一五	六四五五

第三款 本地域の戦術的特徴及要点

一 平坦・開闢地

1. 平坦開闢地は機動戦に適し包囲迂回容易である
2. 火力の發揮大であるから優勢なる砲兵を有する軍の戦闘は容易であり特に防者は地形を利用し火力を發揮し得る
3. 機械化部隊特に戦車は地形の障碍少き為縦横に活躍することが出来る

地上部隊は上空に対し遮蔽し得ないので制空権を獲得せる軍の地上作戦は容易であり空中よりの地上部隊攻撃は効果大である

三 山地

一 老嶺山脈、小白山山脈等濱江省吉林省の東部省境の山地は密林にして道路の兩側僅かに開け自ら長隘路を形成している

従つて防者は逐次の抵抗により時間の余裕を得攻者は突破に大なる犠牲を払はねばならぬ

二 吉林東方の山地、敦化周邊地区の山地の如きは防者は縦深廣玄に配置して火力を發揮し攻者は死角を利用して近接し且包圍迂回により敵の陣地の翼を攻撃するに努むることが必要である 特に森林があり企図を秘匿するに有利である

三 森林

一 老嶺山脈及小白山山脈の森林は一般に密林であつて道路以外の地帯は殆んど部隊の通過は困難である 森林伐採の輕便軌道敷設し

たる所散在するも行詰りとなるのが通常である

密林通過の為に森林通過資材を各部隊及工兵隊等に配当し以て敵の豫期せざる地点に進出することが有利なる場合がある。然し

老嶺山脈は一般に森林が深いので伐開作業は長時間を要する

2. 小白山山脈の南端近く及敦化以東の山地の森林は時に疎林があり遮蔽して行動し得るを以て攻者に有利なることが多い。又上空に對しても遮蔽することが出来る

四河川

1. 松花江本流は河巾一、〇〇〇米内外で水深亦三、四米もあり軍隊の為に大なる障碍となる。随つて防者のためには河川を利用する決戦防禦又は持久防禦が成立するし攻者は多数の渡河材料を準備し企図を秘匿して敵の豫期せざる方面より渡河することが肝要である

2. 第二松花江は河巾六、七百米水深亦二、三米の所もあり松花江本

流と同様の特徴がある。尙陶頼昭附近は兩岸断崖の箇所及丘陵があり防省の為に有利である。

3. 林河は河中二、三百米であるが障碍となる。

4. 右三者共に兩岸に濕地帯があり重車輛の通過困難なる箇所少からざるを以て攻者は豫め周到なる地形の偵察を必要とする。

5. 渡河材料は河川と兵力とに依り十分なる數量を整備することが肝要である。

兵要点

1. 平坦開闢地に於ける要点は都市である殊にハルビン、登春等の大都市は防者としては堅強なる戦鬪をなし得るし攻者は此等の地域は孤立せしめて犠牲を少にして攻略することが必要である。ハル

ピンは背後に松花江を控え橋頭堡としての価値は特に大である。

2. 吉林敦化公主嶺等の都市も亦各々其の地区に於ける要点である。吉林は京図線の隘路の前方にあり此の方面の攻防には吉林を領

有しなれば行動の自由が得られない

3. 山地としては老嶺山脈及小白山山脈が大なる障碍となる。哈爾巴嶺山脈は延吉と敦化との間の要点であるが險峻ならず地形は比較的平易である

4. 松花江本流、第二松花江、拉林河共に戰術的要線であるが其の程度は河巾の廣い順序に松花江本流が第一である